おかやま桃太郎（ももたろう）ものがたり

# 吉備津彦（きびつひこ）と温羅（うら）

阿村礼子・作　夏目尚吾・絵





吉備路ガイドブック

## 桃太郎ものがたりと巡る吉備路



はるか昔、
まだ岡山平野が吉備の児島に
囲まれた「吉備の穴海」と
呼ばれる内海だった頃…。
岡山の地には、
畿内や出雲と並んで、
当時一大勢力を誇った
吉備国が存在したといわれています。
かつて吉備国の中心地だったと
考えられている吉備路は、
「桃太郎伝説」発祥の地であり、
現在でも「桃太郎」にまつわる
地名や旧跡が
数多く残されています。
さあ、悠久の時を経て
語り継がれてきた物語とともに、
吉備路を巡っていきましょう。

物語の文中に添付した番号は、巻末の舞台マップとリンクしています。
観光情報と合わせて、物語をお楽しみください。



おかやま桃太郎（ももたろう）ものがたり

吉備路ガイドブック

# 吉備津彦（きびつひこ）と温羅（うら）

阿村礼子・作　夏目尚吾・絵





この国が統一される前の昔むかしのこと。
大和の国にイサセリヒコという皇子がいました。
まだ十歳でしたが、大人顔負けの弓の腕前をもつ、
とても賢い少年でした。
あるとき、妹を山賊にさらわれたイサセリヒコは、
弓をたずさえ、一人で山賊の棲みかに行きました。





妹を返せと迫るイサセリヒコに、山賊の頭が言いました。

「お前のもっている弓で、あそこに二つ並んでいる桃を射てみろ。右の桃を射抜いたら妹を、左の桃を射たらお前を帰してやろう」

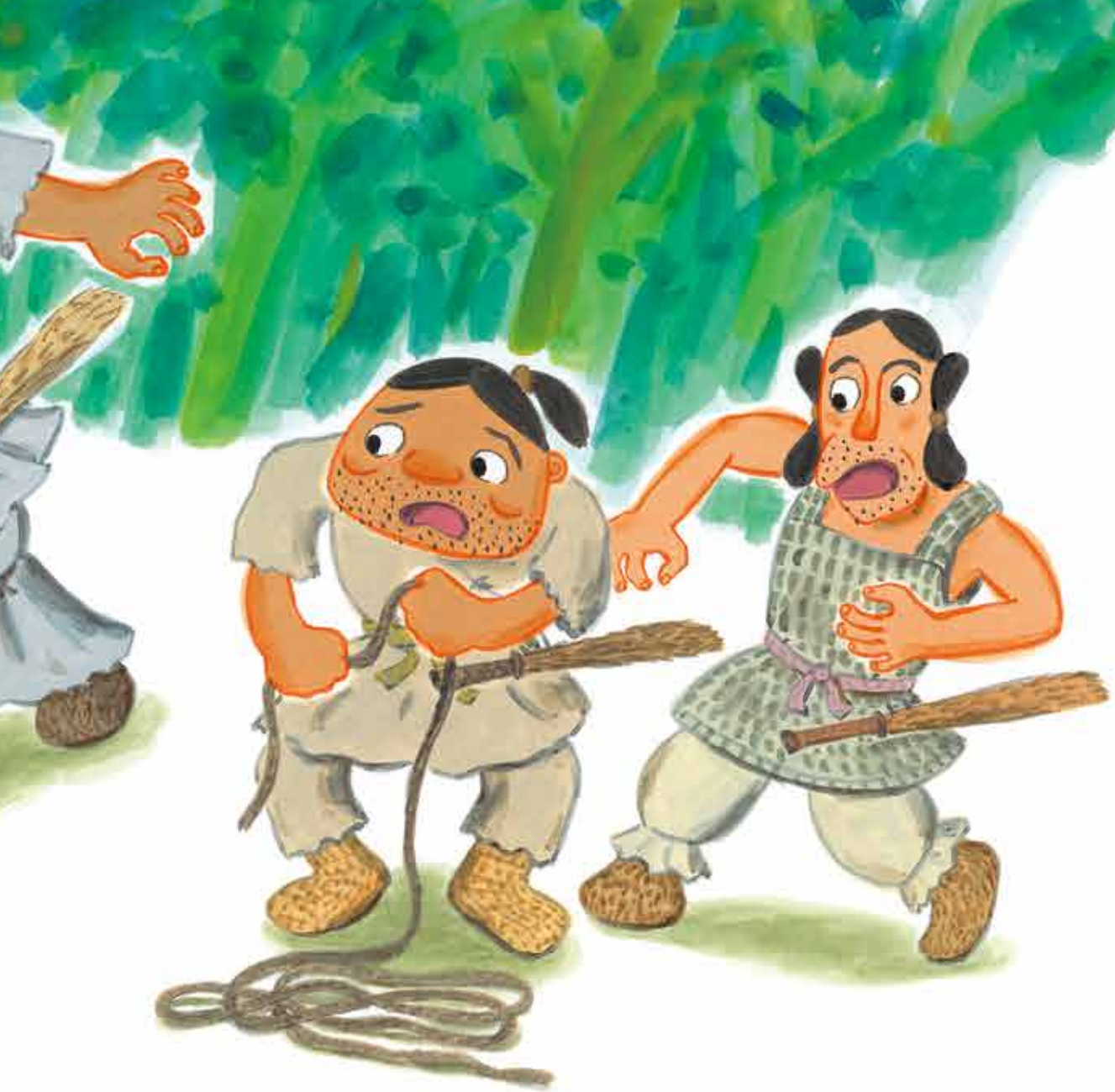
卑怯な賭けでしたが、

抵抗してもまともに取り合う相手ではありません。

イサセリヒコは知恵を絞りました。



そして、こっそりと二本の矢を重ね、矢尻を少しずらして
左右に射分けることを思いつきました。
「あの二つの桃の真ん中を狙って矢を放てば、
両方とも射落とせるはず。
でも、もし外したら、妹も私も一生ここから帰れない……」
弓をもつイサセリヒコの手が震えました。
そのとき、ふと、吉備の国から父に桃を献上しにきた、
ある男の言葉が甦りました。
「桃の実には邪悪なものを振り払う力があります。
私の国が山や海の幸に恵まれ、
人々が平和に暮らせるのも、桃のおかげなのです」
イサセリヒコは桃の霊力が、
自分を悪い山賊から守ってくれると信じて矢を放ちました。



すると、一本の矢は右の桃、もう一本は左の桃を貫き、
桃の種を突き刺したまま空高く舞って、
ストンと彼の足元に落ちました。
山賊は目を白黒させて驚き、
約束どおり妹とイサセリヒコを帰してくれたのでした。





イサセリヒコは、あのとき射抜いた桃の種を
大事に持ち帰っていました。そして、一つは屋敷の門前に植えて、
自ら水やりをして育てました。
もう一つはお守りとして、常に懐にしのばせていました。
イサセリヒコにとって桃は自分の守り神でした。
そして、桃を自国にもたらした吉備の国にも
特別な思いを抱いていたのです。そんな彼のことを、
大和の国の人々は「桃太郎」と呼ぶようになりました。
さらに、その呼び名は、山賊との賭けに勝った話とともに、
遠く吉備の国にまで広がりました。
あれから十年。桃太郎はたくましい青年に成長し、
弓の腕も一段と上げていました。





「近ごろ、吉備の国をおそろしい鬼たちが暴れ回り、村人を襲っているらしい」

そんな噂が大和の国に聞こえてきました。

鬼はみんな驚くほどの巨体らしく、ことに「温羅」と呼ばれる頭の鬼は、身の丈四メートルをこえ、瞳は血の色にぎらつき、髪は赤毛でグルグルと渦巻いて、それはすさまじい形相だとか。

備中・新山⑧のいただきに棲みつき、

海を行き来する船を略奪したり、里の女子どもをさらっては、釜ゆでにして食っているといいます。

村人たちは彼らの棲み家を鬼の城、「鬼ノ城」⑨と呼んで、怖れおののいているそうです。



「父上、私を鬼退治に行かせてください。
吉備の国はわが国に桃をもたらした大切な国です。
その地を荒らし回っている鬼を、決して放ってはおけません」
「よく言った。お前なら、
かならず鬼の首を討ち取ってくれると信じているぞ」
父の大王は、桃太郎に立派な弓と矢、
優れた家来たちを与えて送り出しました。


源氏



桃太郎は家来たちに呼び名をつけました。
主に忠実で、敵に勇敢に向かって行く犬飼健には「犬」。
留玉臣は、わが身を投げうっても主につくす
雉のような忠誠心があるので「雉」。
猿のように知恵が働き、道案内としても役にたつ
楽々森彦は「猿」と名づけました。
桃太郎は吉備の中山②に陣を構え、
西の片岡山に敵の矢を防ぐ石の楯④を築きました。
翌朝、鬼ノ城⑨に向けていっせいに矢を放つと、
鬼たちは右往左往して逃げまどいました。

桃太郎と温羅の一騎打ちが始まりました。
不思議なことに、
桃太郎と温羅が放つ矢は
すべて空中でぶつかり、
矢喰宮⑥に落ちました。
桃太郎の頭に、ふと二つの桃を射抜いた
昔の記憶が甦りました。
桃太郎は矢置岩③に矢を置き、
懐に入れた桃の種に手を当てて
祈りました。
そして、ゆっくり二本の矢を取ると、
弓につがえ、
力をこめて放ちました。





すると、一本の矢は海に落ちましたが、
もう一本は見事に温羅の左目を
突き刺しました。
温羅の目から流れ出した血が
血吸川を赤くそめていきます。



温羅は両手を天に突き上げ、足を強く蹴りあげました。
すると、驚いたことに真っ赤な雉に姿を変えて、
山奥に飛んでいったのです。
桃太郎も鷹に変身して追いかけました。
あと少しのところで赤い雉につかみかかろうとした時、
今度は鯉に化けて血吸川に飛び込みました。
桃太郎も負けじと、鵜になって鯉を追いかけます。
そして、鯉をとらえ、ぐいぐいと胴体を噛みあげました。
鯉は体を深くえぐられ、ついに力つきました。⑤
赤浜に引き上げられた鯉は、元の温羅の姿に戻っていました。
桃太郎は温羅の首をはね、その首を太い串で刺して、
首部の里にある木の上にさらしました。





「う〜、うう〜、ううう〜」
木にさらされた温羅の首は、夜になるとうなりをあげ、
それが何年間も続きました。
「まだ恨みがたちきれないのかのぉ」
「あれは哀しゅうて泣いとるんじゃろ」
村人たちは、温羅の怨念を怖れ、声をひそめて噂しあいました。
そこで、桃太郎は中山の麓にある茅葺宮③の土かまどの下を
地中深く掘り、温羅の首を完全に埋めてしまいました。
ところが、それでも不気味なうなり声はおさまらなかったのです。



それからさらに数年がたったある夜のこと。
桃太郎の夢に温羅が現れました。
「桃太郎、俺は鬼などではないぞ」
夢の中で温羅が語るには――。
彼は朝鮮半島にある百済の国の王子でしたが、
隣国との戦いに敗れ、
供の者たちとこの国に逃れて来たそうです。
船で吉備の穴海に流れついたものの、
漁師たちから鬼と間違われて暴力を振るわれ、
仕方なく山に逃げこんで、新山⑧のいただきに
住まいを構えたというのでした⑩。



「しかし、お前たちは女子どもをさらっては、
釜ゆでにして食うというではないか」
「この俺がそんなことをするはずがない。
新山⑧の麓に阿曽の里という小さな村がある。
そこにいってみるといい」

桃太郎が阿曽の里にいくと⑦、「温羅は命の恩人」だと語る
阿曽男という少年に会いました。
彼は子どものころ、新山で⑧熊に襲われそうになったところを
温羅に助けられたとか。
それ以来、彼は温羅に会いにいくようになったそうです。
みやげに里の食べものをもっていくと、
温羅はお返しに、自分が作った鉄製の鍬や鋤、
銛や錘などの農具や漁具をくれました。
阿曽男はそれを、村人たちに使ってもらおうと
配って歩きました。
「鬼が作ったものなんぞ、気味が悪い」
初めは目をそむけた人々も、
少しずつ手に取ってくれ始めました。実際に使ってみると、
温羅が作った道具はそれまでのものより優れていて、
格段に作業がはかどったのです。















阿曽男の姉の阿曽媛も、
弟と一緒に新山に⑧通ううちに温羅と親しくなっていました。
「温羅さんは、私が作ったきび団子が
この世でいちばん好きなんですって」
阿曽媛は弟に自慢げに言い、
きび団子をどっさり作ってはいそいそと温羅に届けました。
……時は流れ、いつしか温羅と阿曽媛の間には、
深い愛が芽生えていました。
「ねえ、温羅はまだ一度も山を下りたことがないでしょ。
ぜひ私たちの村にきてほしいの」
「でも、阿曽の里の⑦人たちは、
俺のことを鬼と怖れているのだろう？」
「いいえ。今ではあなたの作った道具を
みんなが使っていて、誰もが感謝しているわ」
二人は夫婦の誓いをたてました。
村人たちも、この結婚を心から喜びました。





阿曽男から話を聞き、ことの一部始終を知った桃太郎は、
自分を激しく責めました。
「私は阿曽媛や阿曽男から愛する人を奪い、
吉備の国から希望の光を奪ってしまった」
桃太郎が嘆く声に応えるように、
どこからともなく温羅の声が語りかけてきました。
「桃太郎、ようやく真実を知ったようだな」
「温羅か。さぞかし私を恨んでいるだろう」
「いや。お前が俺を討ったのは、吉備の国の平和を守るためだろう。
俺もお前と同じくらい、この国の人々の幸せを願っていた」
「お前も大事なものを守ろうとしたのだな」
「そうだ。俺たちはもし違う形で出会っていたら、
心を分け合う友になれたかもしれない」
「皮肉な運命だな」



桃太郎は自分の罪を悔い、
温羅のために何かできることがないかと問いかけました。
「一つ頼みがある。俺が埋まっているこの茅葺宮③の、
かまどの火を炊く役目を阿曽媛にさせてくれ。
そうすればいつもここから妻を見守ってやれる。
俺は、世の吉凶を知らせる占いをしよう。
幸せが訪れる時はこの釜を豊かに鳴り響かせ、
禍いがある時は荒々しくうならせて、人々に生きる道を示す③」
「わかった。私はお前の遺志を継ぎ、
生涯この国の人々の幸せのために身を尽くそう。その証として、
今日から、吉備の二文字を取って”吉備津彦“と名乗ることにする」
「吉備津彦か。お前の働きを、ここからしっかり見ているからな」



吉備津彦と改名した桃太郎は、温羅に誓った言葉どおり、
その一生を吉備の国の繁栄と安泰のために捧げました。
――今、吉備津彦は阿曽媛と阿曽男をともなって、
新山⑧のいただきに立っています。
「見よ。あの海の向こうに私の生まれた大和の国がある。
いつかこの国と大和の国は一つになるだろう。
国と国の隔てなどなく、さらに大きく豊かな国を目指すのが、
温羅と私の夢の行きつく場所だ。
阿曽媛、阿曽男、その夢を叶えるために力を貸してくれるか」
「はい、喜んで」
国づくりを固く誓いあう三人を、
温羅が天上から温かく見守っています。



おかやま桃太郎（ももたろう）ものがたり

# 吉備津彦（きびつひこ）と温羅（うら） 舞台MAP

吉備津彦と温羅の物語、いかがでしたか？
岡山市の西部から総社・倉敷市へ、東西約20キロに広がる吉備路エリアには、
この物語にまつわる地名や旧跡が今も数多く残されています。
物語の舞台を巡り、いにしえの吉備国に思いを馳せてみませんか。





**阿宗神社** P22・23・25



**矢喰宮** P15
吉備津彦の射た矢と
温羅の射た矢が
空中でよつかり落ちた場所

**血吸川** P16
矢傷を負った温羅の血が
流れ込んだ血吸川

**赤浜** P17
目から流れ出た
温羅の血が浜を赤く染め、
この名のついた赤浜





**鯉喰神社** P17



鯉に化けた温羅を
鵜となった吉備津彦が
喰い上げた場所

**楯築遺跡** P14
吉備津彦が敵の矢を
防ぐために築いた石の楯



**吉備津神社** P15・19・28
（矢置岩・御釜殿）
茅葺宮の跡に社殿を造営し、
吉備津彦を祀った神社



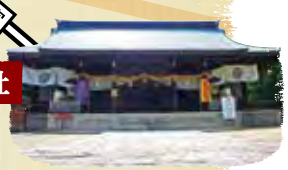
**御釜殿**
温羅の首が地中深くに
埋められた御釜殿では、
現在も「鳴釜神事」が行われている



**矢置岩**
吉備津彦が温羅との
戦いの時に矢を置いた岩



**吉備津彦神社**



**吉備の中山** P14
温羅退治を命じられた
吉備津彦が陣を構えた場所

## 1 吉備津彦神社（きびつひこじんじゃ）

祭神は大吉備津彦命で、吉備国が備前・備中・美作に分割された際、備前一宮として建てられた。三間社流造（さんげんしゃながれづくり）、檜皮葺き、花崗岩の亀腹など、寺社建築の資料的価値とともに、社殿の美しさでも評価が高い。8月にある御田植祭は、鎌倉時代以前から引き継がれている伝統行事。

所 岡山県岡山市北区一宮1043
交 岡山総社ICから車で約20分

## 2 吉備の中山（きびのなかやま）

P14

古今集に「真金吹く吉備の中山帯にせる 細谷川の音のさやけさ」と詠われた山。吉備津神社と吉備津彦神社を両袖に優美な姿を拡げている。標高は162m、南嶺には茶臼山御陵があり、四道将軍・吉備津彦命が眠っているとされている。

交 岡山県岡山市北区吉備津
岡山総社ICから車で約20分

## 3 吉備津神社（きびつじんじゃ）（矢置岩（やおきいわ）・御釜殿（おかまでん））

P15 P19 P28

大吉備津彦命を主神とし、吉備氏一族の神も祭られている。本殿80坪、拝殿24坪は国内屈指の規模。比翼入母屋造りの優美な建築様式は「吉備津造り」とも言われ、国宝に指定されている。温羅伝説では、温羅退治を朝廷より命じられた吉備津彦命が陣を構えた場所とされる。

所 岡山県岡山市北区吉備津931
交 岡山総社ICから車で約15分

## 4 楯築遺跡（たてつきいせき）

P14

全長約80m、円丘部直径約40m、古墳時代以前の3世紀では日本最大の弥生墳丘墓。鉄剣や首飾りをはじめ、当時貴重とされた朱が大量に発見されたことから、被葬者は3世紀前半の最有力者と言われている。温羅伝説では、頂上の5つの平らな岩は、温羅の矢を防ぐための楯と伝えられている。

所 岡山県倉敷市日畑・庄新町
交 岡山総社ICから車で約14分

## 5 鯉喰神社（こいくいじんじゃ）

P17

祭神は吉備津彦命の臣下の楽々森彦命（ささもりひこのみこと）と温羅（うら）。仁徳天皇が吉備津宮の末社の一つとして創建したと伝えられる。温羅伝説では、鯉に化けて血吸川に逃げる温羅を、吉備津彦命は鵜となって追いかけ、喰い上げた場所と言われる。

所 岡山県倉敷市矢部109
交 岡山総社ICから車で約10分

## 6 矢喰宮（やぐいのみや）

P15

吉備津神社と鬼ノ城の直線距離は約10kmで矢喰宮はそのほぼ中間点に位置することから、吉備津彦命の放った矢と温羅が投げた岩とが落ちた場所といわれている。境内にある花崗岩の巨石は「矢喰の岩」といい温羅が投げたものと伝えられている。

所 岡山県岡山市北区高塚
交 岡山総社ICから車で約1分

## 7 阿宗神社（あそうじんじゃ）

P22 P23 P25

阿宗神社のある阿曽郷は、日本最古級の製鉄跡が多数発掘された血吸川流域一帯の地名。吉備津神社の鳴釜神事で使用される釜を納めるのは代々、阿曽郷の鋳物師と決められており、温羅ゆかりの鉄の里・阿曽と吉備津神社の強い結びつきを物語っている。

所 岡山県総社市奥坂96
交 岡山総社ICから車で約15分

## 8 新山・鬼の釜（にいやま・おにのかま）

P11 P21~23 P25 P29

鬼ノ城への登山道わきにある、直径約1.8m、深さ約1mの鉄の釜。温羅が生贄をゆでた釜と言われるが、実際は鎌倉時代に僧・重源が庶民の入浴や炊き出しに使ったという説が有力。鉄は地元、総社市阿曽のものでこの一帯に鉄が豊富だったことを物語っている。

所 岡山県総社市黒尾
交 岡山総社ICから車で約17分

## 9 鬼ノ城（きのじょう）

P11 P14

鬼城山（標高400m）の山頂にそびえる山城で、温羅がこもったとされる。城壁で囲まれた城内は約30ヘクタールで全国屈指の規模。城門が4ヶ所あり、城内には食品貯蔵庫と考えられる礎石建物跡や水門、溜井（水汲み場）もある。

所 岡山県総社市奥坂
交 岡山総社ICから車で約18分

## 10 岩屋寺・鬼の岩屋（いわやでら・おにのいわや）

P21

鬼ノ城から約3km北の連山の一角にある真言宗の寺院。裏山に花崗岩質の洞窟があり、「鬼の岩屋」と呼ばれる。温羅伝説によれば、温羅が住んだところとされ、墓地にある「皇の墓」は、温羅の胴体を埋めた墓との説もある。

所 岡山県総社市奥坂
交 岡山総社ICから車で約25分









岩屋寺・鬼の岩屋 P21
山に逃げ込んだ温羅が住み着いたところ

鬼ノ城 P11·14
鬼城山山頂一帯に温羅が築いた山城

新山・鬼の釜 P11·21~23·25·29
物語中、温羅が里の女子どもをさらっては釜ゆでにしたとされる釜

高梁川

岡山自動車道

東総社

総社

N

半日（6時間）コース 車で

岡山総社IC
↓ 車約20分 国道180号
1 吉備津彦神社 30分
↓ 車約5分 国道180号
2 吉備の中山 3 吉備津神社 40分
↓ 車約15分 国道180号~公道
4 楯築遺跡 20分
↓ 車約5分 公道
5 鯉喰神社 20分
↓ 車約15分 公道~国道180号
6 矢喰宮 20分
↓ 車約15分 国道180号~公道
7 阿宗神社 20分
↓ 車約20分 公道
8 新山・鬼の釜 20分
↓ 車約5分 公道
9 鬼ノ城 40分
↓ 車約5分 公道
10 岩屋寺・鬼の岩屋 20分

429

観光情報に関するお問い合わせ ももたろう観光センター Tel：086-222-2912

歴史と伝説が交差する

# 吉備路周辺観光MAP

物語の舞台だけじゃない！
吉備路周辺には、
全国的にも貴重な古墳や旧跡、
偉人ゆかりの地など見所がいっぱい。
郷愁あふれる四季折々の
美しい風景も魅力です。




レンタサイクルに関するお問い合わせ　吉備路観光案内センター　Tel：0866-92-1211



## 15 旧足守藩侍屋敷 きゅうあしもりはんさむらいやしき

足守藩家老・杉原家の旧宅。白壁の長屋門と土塀に囲まれた屋敷は、現代和風建築の原型といわれる武家書院造り。武家屋敷は明治維新後、急速に姿を消したため保存状態の良いこの邸は、武家の生活様式を知る上で大変貴重なものとされている。

所 岡山県岡山市北区足守752
交 岡山総社ICから車で約10分
問 086-295-0983（岡山市教育委員会文化財課）



## 14 近水園 おみずえん

旧足守藩主木下家の小堀遠州流池泉回遊式庭園。池庭は単純な地割がなされ、樹齢数百年のモミジやサクラ、エノキが池を囲み、池中に鶴島、亀島の二島が巧みに配されている。四季折々の憩いの場として桜、紅葉、そして牡丹の季節は、多くの人が訪れる。

所 岡山県岡山市北区足守803
交 岡山総社ICから車で約10分
問 086-295-0981（近水園管理事務所）



## 13 緒方洪庵生誕地 おがたこうあんせいたんち

緒方洪庵（1810～1863年）は、江戸時代後期の蘭学者、教育者。備中足守藩士・佐伯惟因の三男として、足守に生まれ、29歳の時、医業の傍ら蘭塾「適適斎塾」を大坂に開き、福沢諭吉、大村益次郎ら多くの門弟を育てた。生家跡に建つ顕彰碑の下には洪庵のへその緒と遺髪が埋められている。

所 岡山県岡山市北区足守
交 岡山総社ICから車で約10分
問 086-222-2912（ももたろう観光センター）



## 12 最上稲荷 さいじょういなり

日本三大稲荷の一つとされ、祈祷の名刹。吉備平野を展望できる景勝地に、約1250年前、報恩大師によって開かれたといわれる。寺院であるが鳥居があり、本殿は神宮形式という「神仏習合」の祭祀形態が許されており、「商売繁盛・交通安全・学力増進」等の祈願に多くの参詣者が訪れる。

所 岡山県岡山市北区高松稲荷712
交 岡山総社ICから車で約10分
問 086-287-3700（最上稲荷）



## 11 備中高松城址 びっちゅうたかまつじょうし

高松城は、織田信長の命を受けた羽柴秀吉（豊臣秀吉）の水攻めにあい、城主清水宗治の自刃とともに落城した。本丸跡には宗治の首塚があり、現在は歴史公園として整備されている。また公園内にある資料館ではさまざまな資料が展示されている。

所 岡山県岡山市北区高松558-2
交 岡山総社ICから車で約10分
問 086-287-5554（高松城址公園資料館）



## 20 こうもり塚古墳 こうもりづかこふん

6世紀後半に自然の丘陵を利用してつくられた全長約100mの前方後円墳。内部の石室は巨石を用いた横穴式石室で、長い羨道とその奥の玄室からなっており、玄室には家形の大きな石棺がおさめられている。石棺に使われている岩は、井原市野上町産の浪形岩（貝殻石灰岩）。

所 岡山県総社市上林
交 岡山総社ICから車で約15分
問 0866-94-3155（国分寺観光案内所）



## 19 備中国分尼寺跡 びっちゅうこくぶんにじあと

奈良時代に聖武天皇の発願により造営された備中国の尼寺跡。寺域は東西108m、南北216mの規模で、築地土塀で囲まれた境内には南から北へ南門、中門、金堂、講堂などの建物が一直線上におかれた伽藍配置となっている。金堂の礎石などの遺構が現在も良好な状態で保存されている。

所 岡山県総社市上林
交 岡山総社ICから車で約14分
問 0866-94-3155（国分寺観光案内所）



## 18 千足装飾古墳 せんぞくそうしょくこふん

造山古墳の主に殉死した者を葬った最大規模の陪塚。墳長74mの前方後円墳で5世紀後半の築造とされる。玄室の前面に直弧文、上面に鍵手文の文様があることから装飾古墳と呼ばれ、鏡、勾玉、小玉、刀剣、甲冑などが出土した（全国的にも貴重な石室装飾は現在、修復中）。

所 岡山県岡山市北区新庄下
交 岡山総社ICから車で約10分
問 086-222-2912（ももたろう観光センター）



## 17 造山古墳 つくりやまこふん

古墳時代中期の巨大前方後円墳。墳丘の長さでは、全国第4位であり、墳丘に立ち入りできる古墳としては日本最大である。現在まで、本格的な学術調査が行われておらず、未発掘だが、その規模から被葬者は吉備全域を統括していた大首長だったと考えられている。

所 岡山県岡山市北区新庄下
交 岡山総社ICから車で約10分
問 086-222-2912（ももたろう観光センター）



## 16 雪舟生誕地 せっしゅうせいたんち

和尚さんに叱られてお寺の柱に縛られ、涙でねずみの絵を描いたという逸話で有名な画聖・雪舟は、応永27年（1420年）、備中赤浜村（現・岡山県総社市）で生まれた。生誕地とされる場所には天才画僧を偲ぶ記念碑が建っている。

所 岡山県総社市赤浜
交 岡山総社ICから車で約3分
問 0866-92-1211（吉備路観光案内センター）

## 吉備路の祭り・年中行事

- ●吉備津の三味線もちつき
  吉備津神社 1月1日～3日
- ●矢立の神事
  吉備津神社 1月3日
- ●えびす祭
  吉備津神社 1月9日～11日
- ●初午祭
  最上稲荷 3月第1日曜日
- ●吉備路れんげまつり
  備中国分寺周辺 4月29日
- ●幻想の饗宴
  備中国分寺境内 5月上旬
- ●吉備津神社の七十五膳祭
  吉備津神社 5月・10月第2日曜日
- ●宮内踊り〈県文化財〉
  吉備津神社 7月31日
- ●御田植祭〈県文化財〉
  吉備津彦神社 8月2日～3日
- ●おかやま桃太郎まつり
  岡山駅周辺 8月上旬
- ●総社市民まつり 雪舟フェスタ
  総社市役所周辺 8月上旬
- ●お火たき大祭
  最上稲荷 12月第2日曜日とその前日



## 23 作山古墳 つくりやまこふん

5世紀の中頃、古墳時代中期に造営された古代吉備王国の大首長の墓といわれている。全長約282m、後円部径170m、同高さ24m、小さい丘陵を加工した、三段築成の前方後円墳。全国では10位、岡山県下では造山古墳に次いで2位の規模を誇っている。

所 岡山県総社市三須
交 岡山総社ICから車で約15分
問 0866-92-1211（吉備路観光案内センター）



## 22 備中国府跡 びっちゅうこくふあと

国府とは律令制下、備前国・備中国などの各国に置かれた役所のこと。国道180号線「国分寺口」交差点の東に「備中國府遺祉」と刻まれた石碑があり、その向かい側には御所宮の石碑がある。備中国府の場所については未確定だが「御所」の地名が残るこの場所が、有力候補地となっている。

所 岡山県総社市金井戸
交 岡山総社ICから車で約3分
問 0866-94-3155（国分寺観光案内所）



## 21 備中国分寺 びっちゅうこくぶんじ

鎮護国家を祈るため、天平13年（741年）に聖武天皇の勅願によって建てられた官寺。五重塔は、南北朝時代に七重塔（高さ50mと推定）を焼失した後、天保14年（1843年）頃、位置を変えて再建（高さ34.32m）。江戸時代後期の様式を濃く残す岡山県内唯一の五重塔である。

所 岡山県総社市上林1046
交 岡山総社ICから車で約15分
問 0866-94-3155（国分寺観光案内所）

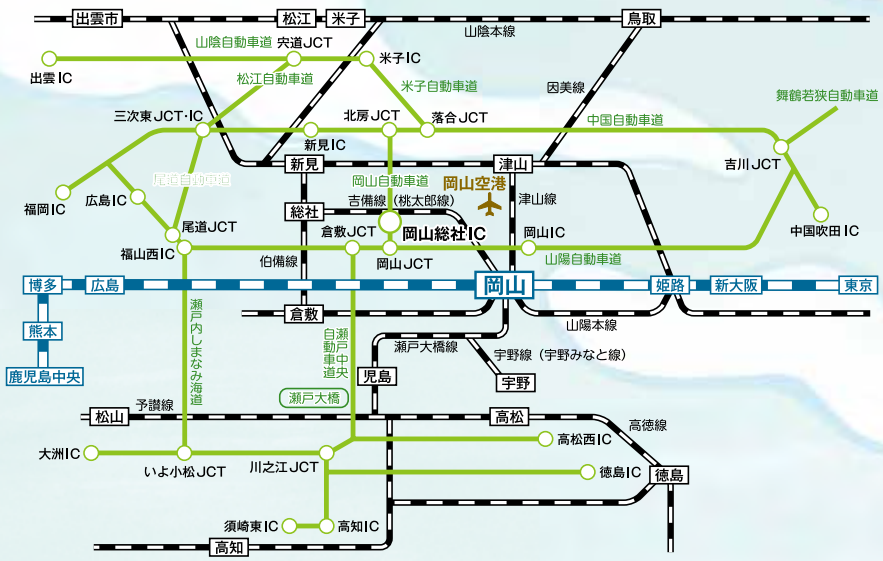
## アクセスガイド

### 車利用での岡山市内までの所要時間

- 大阪から …… 約２時間10分
- 広島から …… 約１時間50分
- 米子から …… 約１時間40分
- 高知から …… 約２時間00分

### JR岡山駅までの所要時間（のぞみ利用）

- 東京駅から …… 約３時間17分
- 新大阪駅から …… 約45分
- 広島駅から …… 約36分
- 博多駅から …… 約１時間43分




### 岡山空港までの所要時間

- ソウルから …… 約１時間35分
- 上海から …… 約２時間
- 台北から …… 約２時間45分
- 香港から …… 約３時間
- 東京から …… 約１時間10分
- 札幌から …… 約１時間50分
- 沖縄から …… 約２時間








この物語は、「浅野温子 よみ語り『吉備津彦と温羅 ～吉備の国を造った運命の二人～』（原作・阿村礼子）」をあらたに脚色した作品です。

岡山市
（2017.2）